平安宮正親司跡発掘調査現地説明会資料

２００６年9月9日

調 査 地：　京都市上京区下長者町通七本松西入鳳瑞町 223
調査期間：　2006年８月 10日～９月 15日（予定）
調査面積：　約 300㎡
調査主体：　財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

はじめに

平安宮の北西地区にある正親司（おおきみのつかさ）は、西限が西大宮大路（にしおおみやおおじ）に接し、北側に漆室（うるしむろ）、南側に右近衛府（うこのえふ）、東が大蔵庁（おおくらちょう）に隣接している。正親司は天皇の親族の名簿を管理して、時服、季禄の下賜に携わった役所で、采女司（うねめのつかさ）と併置されていたとの記録もある。調査地はこの正親司の中央地区に位置する。

現在までに、正親司内では２例の発掘調査と数次の立会調査が実施されている。本調査地北西の調査２では平安時代前期の溝・柱穴と後期の溝を検出している。仁和小学校内の調査３では後世の粘土採取による撹乱が激しく、明確な遺構は検出されていない。立会調査である調査８では、御前通東側の地点で平安時代後期の溝が検出されている。その他の立会調査では残念ながら明確な遺構は検出されていない。

遺構

今回の調査で検出した遺構には、溝（みぞ）、土壙（どこう）、建物（たてもの）、柵（さく）などがある。

溝は３条が検出され、溝１は東西方向で幅１.8m、深さ０.4mを測る。溝２は南北方向で幅０.4m、深さ０.1mを測る。溝３は南北から東西に屈曲し、更に南方向に曲がり、幅０.5m、深さ０.4mを測る。土壙は２基が検出された。土壙１は隅丸方形で、東西幅３m、南北幅３.3mを測り、深さは０.5mを測る。土壙２は平面形が楕円形とみられるもので、東西が６m以上、南北３m以上とみられる。建物は南北に並ぶ柱穴を３箇所で検出した。柱間は２.4m（８尺）を測る。東西棟の西南部を検出したものと観察している。柵１は柱間約２mを測り、南北方向で検出した。

遺物

出土した遺物は、平安時代前期の土師器（はじき）の杯・皿、須恵器（すえき）の杯・皿、灰釉陶器（かいゆうとうき）椀、緑釉陶器（りょくゆうとうき）椀・皿および瓦類がある。これらの土器類は主として２基の土壙から出土したもので、整理箱に 10箱前後が出土している。また上層の江戸時代の遺構からは陶磁器類、瓦類が出土している。

まとめ

これまで、平安宮の北西部では発掘調査の事例が少なく、各官司の様相は明確とはいえなかった。しかし今回の調査で、正親司に限られたものではあるが、官司内の区画や施設と思われる遺構を確認することができた。遺構の性格については、今後の検討および近辺の調査成果を待ちたい。

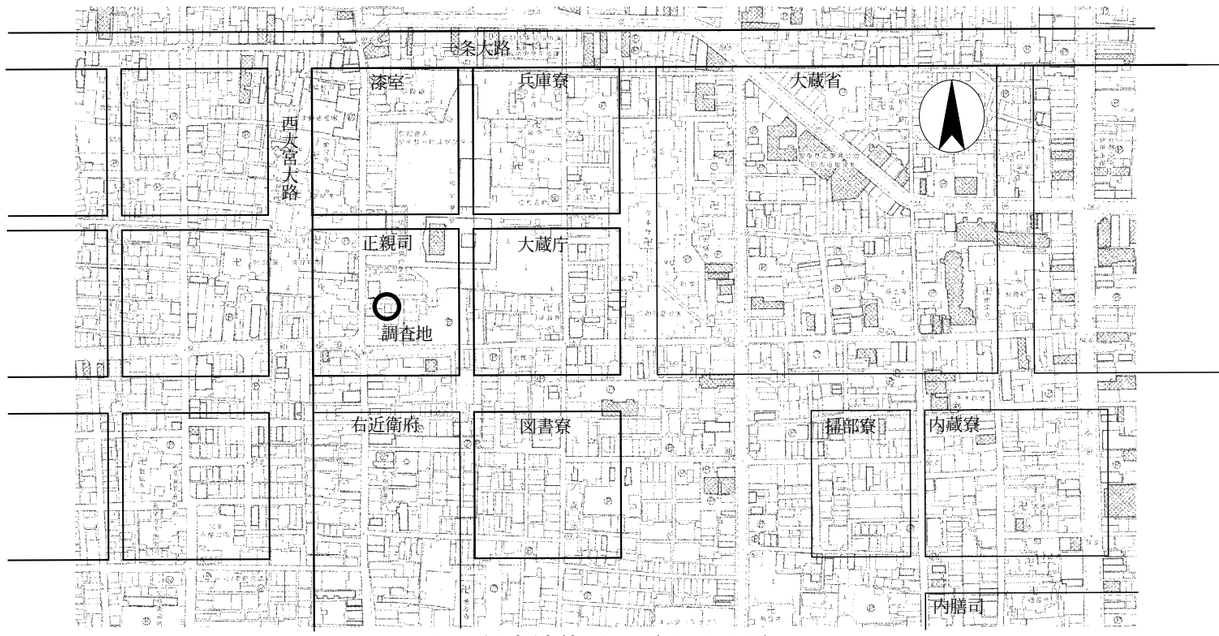
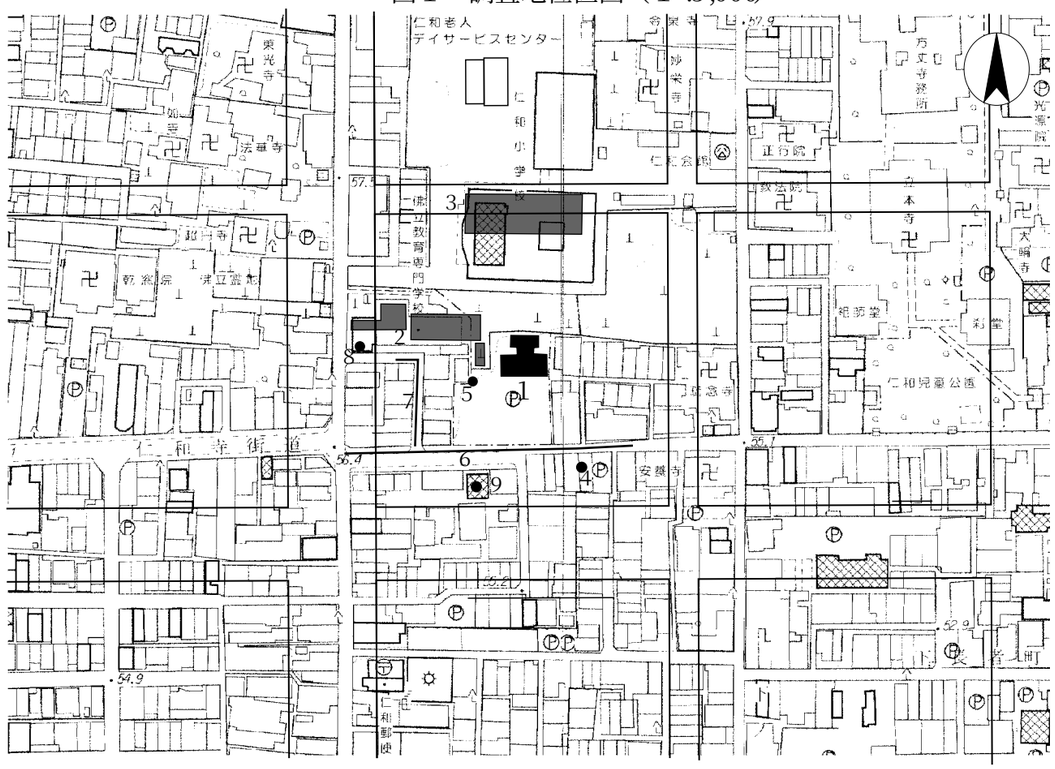


図１　調査地位置図（１ :5,000）



1　本調査
2　昭和 53年度（1978）調査
　「平安宮正親司跡」『平安京研究資料集成　１平安宮』　平成６年（1994）
　「付章　正親司跡」『平安宮(特)』　平成７年（1995）
3　「平安宮正親司・漆室跡」『平成 10年度　京都市埋蔵文化財調査概要』　平成 12年（2000）
4　昭和 54年度試掘・立会調査概報　（1979）
5　昭和 57年度試掘・立会調査概報　（1982）
6　昭和 59年度調査概要　（1984）
7　昭和 63年度調査概要　（1988）
8　平成２年度試掘・立会調査概報　（1990）
9　平成２年度試掘・立会調査概報　（1990）

図２　平安宮正親司跡調査地位置図（１ :2,500）

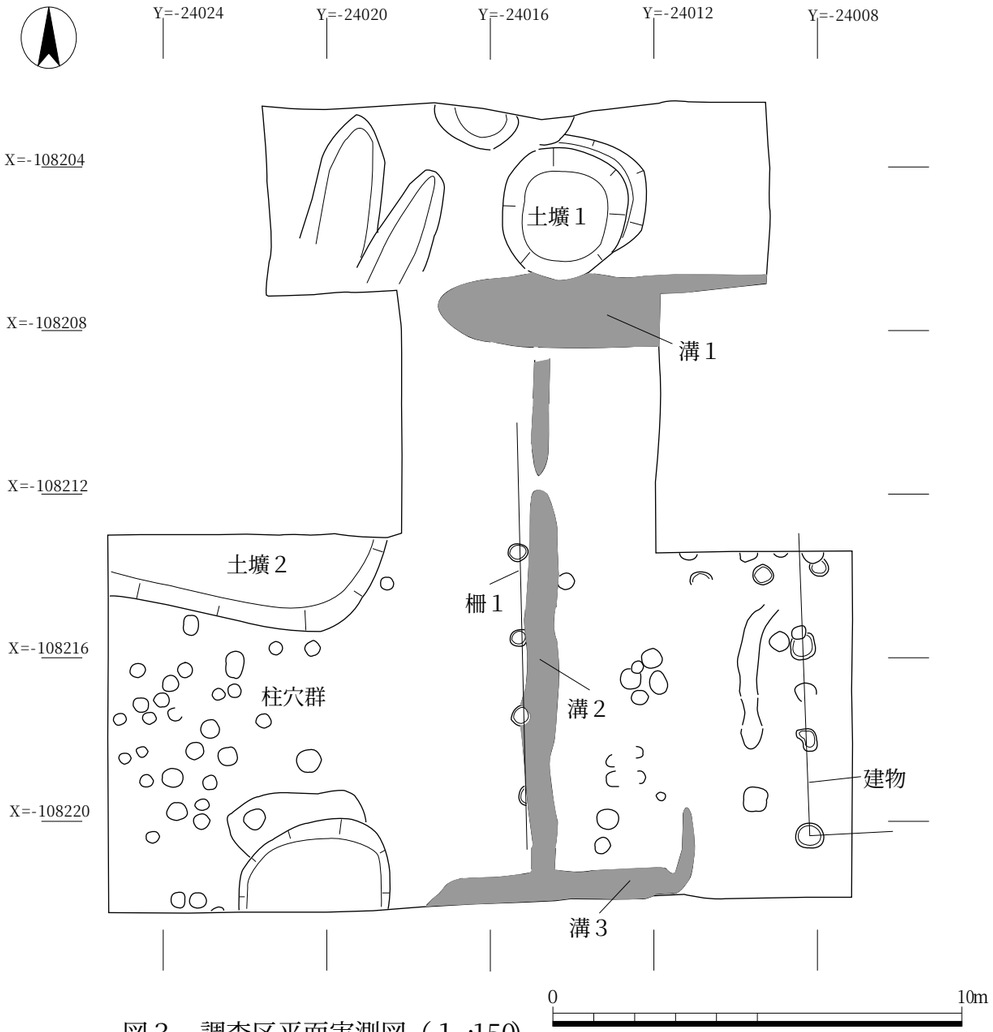
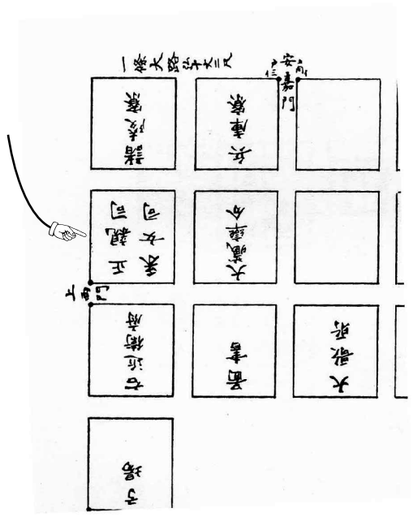


図３　調査区平面実測図（１ :150）



「拾芥抄（しゅうがいしょう）」による平安宮西北部

拾芥抄は、百科全書みたいなもので、成立時期はよくわかっていない。現存のものは、中世に改編されたものである。この中に、宮城指図や東西京図などがある。

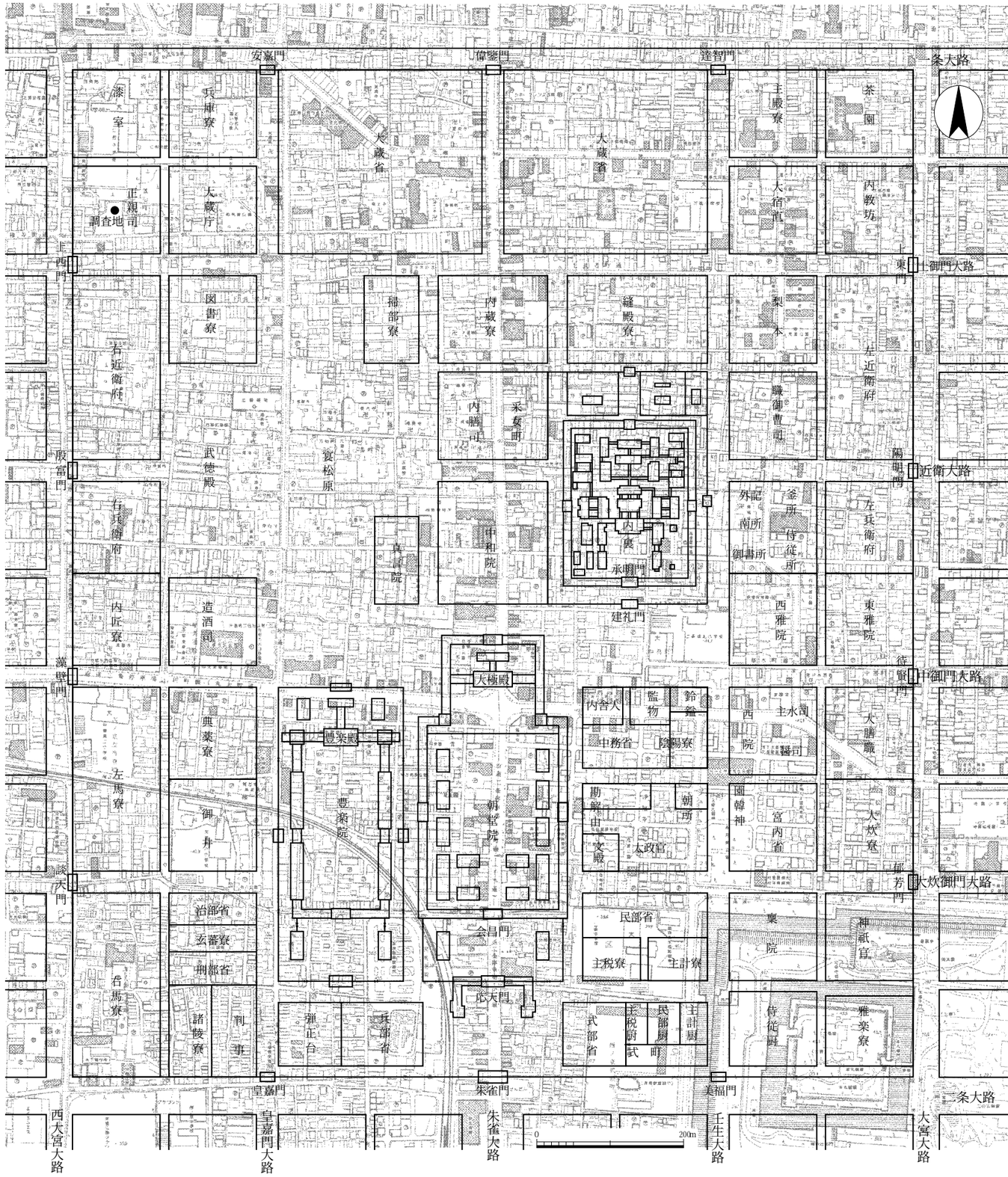


図４　平安宮推定復元図（官司名は、陽明文庫本宮城図などを参照した。）